

アマダイ通信NO.62

(Tile fish network letter)

07年黄花コスモス咲く

知人・友人各位

国会の代表質問直前に職を投出した安倍総理、何とひ弱で無責任なリーダーを日本国民は戴いてたのか？振子を反対寄りに、目先を変え、福田ジュニアが登場するようだが、どこまで期待できるか？この際、国会を解散、三鷹寮1年後輩の舛添厚労相を頭に総選挙でもしない限り、次の衆議院選で政権交代、二大政党制の幕開けとなるのではないだろうか？

元近衛師団の兵舎という、三鷹寮の粉雪舞込む木造の部屋で、私のオルグにも動ぜず民社党支持ですからと勉強に打込む、舛添君のドテラ姿が目には浮かぶ。40年の歳月を経、恋の他に革命(政治)という、人生の二つの華を闘って手にできる確率は如何ばかりか？

名古屋駅新幹線のぞみホテル？リニアがあれば！

9月初旬、明朝にも台風9号が首都圏に上陸か？という朝、大阪に営業。帰りは新大阪駅ビルの美々卯で、うどんすきで一杯やって帰ろう、前は生き海老を鍋に入れ忘れ食べ損ねた、忘れないで入れよう！などと残酷なことを考え、品川からのぞみに乗る。が、静岡辺りで猛烈な雨。のぞみは急にスピードダウン。大阪着が大きく遅れる。太陽が顔出しているが、帰りはヤバそうだ。大阪で美味しい酒を飲むのは諦め、4時過ぎののぞみに乗る。

京都も米原も無事通過。が、岐阜羽島の追越し線で止まる。富士宮と熱海間で秒速30mの強風を記録、動く気配なし。上陸は明朝、いずれ動くとも高をくくると1時間20分。ようやく動き出すが、ノロノロ運転。何処までこんな調子で走る？と思いきや、名古屋で長時間止まった末に運転を打ち切り、博多行きのぞみに切替わる。富士宮までの間に上りの新幹線が沢山つかえ、逆に下りの車両が足りなくなったのだ。こんな時に磁気浮上式超高速リニア新幹線があれば随分便利だ！今夜はひょっとしてのぞみをホテル代わりに名古屋駅で夜明かし？初体験だ！車内販売ではとくにビールは売り切れ。数少なくなった弁当と好きなサッポロ黒ラベルロング缶を売店で確保、ホームのベンチも確保し、腹ごしらえ。上りの新幹線が次々人を吐き出すのに、ホームの人が少なくなる。何故だ？

まだ夜中には時間がある。上りの新幹線が続々名古屋で運転打ち切りになるから、全員新幹線ホテルという訳にはいかない。我先に一夜の宿を求めて夜の名古屋に散った訳だ。“慌てる乞食は貰いが少ない”とのんびりしている訳にはいかない！駅の周りにもビジネスホテルが沢山あるが、出遅れた今となっては空いてないだろう。駅ビルの上階の名古屋最高級ホテル、マリオットなら空いてるかも知れない！三鷹寮の先輩の深山社長に泣きつけばどうにかしてくれるかも！しかし零細自営業者の●には高過ぎる。駅前のホテルは諦め、タクシー運転手に、どこかカプセルホテルに連れてってくれと頼むが、知らないかと断られる。ワシントンやサンルート等、名の知れたホテルも無理だ。最悪ラブホテルでもと、地下鉄で二駅の名古屋の「銀座」栄へ。交番に駆け込む。近くのビジネスホテルを探してもらい電話、一部屋だけ空いているという。タッチの差で確保。鞆を置いて近くの居酒屋へ！

癌完治でも保険入れません！？

学校給食の栄養士のカミさんが昨年、●に鞭打ち働かされた？30余年の勤労人生を目出度く卒業、2千万円近くの退職金を手にする。アメリカほど酷くはないが、カナダやヨーロッパ、キューバほど医療保険が手厚くない(マイケル・ムーア監督の「Sicko」参照)日本では、癌再発の暁には70歳まで毎月20万円ほどの支払いが残る、●名義の住宅ローンを返していけない。繰上げ返済に半分回して！と懇願するも一顧だにされない。自分の老後の安心のためにと、幾つか銀行を廻り運用の話聞くが、よくわからないという。そこで、●に生前給付の保険金を一千万円貰えるようにしてくれた、かつての「慶大全共闘ML派」の仲間、SONY生命の村中君に、元金保証の一時払い変額年金保険の見積りを貰う。

ついでに癌完治の、術後五年になったら僕も新しく保険に入ると言うと、干場さんは入れませんよ！履歴残ってるから！とにべもない。柳の下の二匹目のドジョウを！という訳でもないが、術後5年経過で大腸癌完治と言ってもせいぜい「半治」というところで、リスクが大き過ぎる、死ぬ確率が高過ぎるということか？それならリスク計算して掛金を設定すればいいと思うのだが？他人の懐を当てにしてリスクを分け合うのではなく、死ぬまで働け！働けなくなったら死ぬ！ということか？

ところで村中君のお客で生前保険金貰った人は何人いるの？と聞くと、五人いるという。その中で●の1千万円が、一番金額が大きかったらしい。個人で入る場合、給付金額が大きくなると、掛金も高くなるので、受取金は精々2、3百万円だという。会社だと損金(経費)に計上できるので高額な掛金も支払えるが、某会社の役員は会社に七百万円入ったが、癌になった自分は十万円しか貰えず、ぼやいていたという。

イランって危なくない？

お盆休みにイランに行くと言うと、皆から同じ答えが返ってくる。確かに両隣のイラクとアフガニスタンでは、血生臭い戦争が繰り返され、政情不安を抱え、強権支配の続く近隣のパキスタンや中央アジア諸国でも、時に爆弾テロや、誘拐等が繰り返される。その上、自国の核戦力は増強こそすれ一向に削減せず、イスラエルの核開発には目をつぶるアメリカが、イランの原子力開発を止めさせようと圧力をかけ、北朝鮮と並べ「ならず者国家」等と呼ぶものだから、イランは「危ない国」という印象が染み付いているようだ。

だが、イラクがそうだったように、石油が喉から手が出るほど欲しいアメリカが、無茶な戦争でも始めない限り、イランの秩序は安定している。自由と民主主義の伝道師？！ブッシュが手を組むサウジアラビアやエジプトの政権より、イランのイスラム政権の統治の方がはるかに自由で民主的だ。自分の言うことを聞けば、黒も白と言うのがアメリカ流だ。イラクで失敗し、アフガニスタンでの失敗も明らか、北朝鮮にも足元を見られているアメリカに、イランでの武力行使などできはしない。貧困と抑圧に根ざす問題を武力で片付けようとするのがアメリカで、ベトナムでの失敗を少しも学んでいない。同じ位の代償を払うまで、気づかないのだろうか？教えてやるのが「同盟国」日本の役目ではないか？

危ない！と言われると益々行きたくない。それに、日本人の先祖が熊の皮をまとい、洞穴に住み、生肉を食べ、狼や熊等と喰うか食われるかの、凄惨な生存競争を行っていた紀元前7千年の昔から、アケメネス朝だ、ササン朝だと、煌びやかな文明の華を咲かせていたペルシャ。そのペルシャが、なぜ経済的に遅れた状態にあるのか？イスラム共和国の実際は？これから先は？興味は尽きない。北京乗継ぎのイラン航空でテヘランに飛ぶ。

イラニアンピア頼みコカコーラ出る

3 時頃の予定が、北京からの折返し機の到着遅れで、7時半頃経由地北京に向け成田を離陸。回教の厳しい戒律を旅行者にも強いるシーア派のイランでは、アルコールは御法度だ。生ものも食べられない！遅れをいいことに鮎屋に駆け込む。鮎の他にあら煮やハタハタの一夜干し、お新香まで頼み、暫くまともに飲めないと、鯨飲。昼からいい気分。

機内では直ぐ寝込み、食事で起こされる。イラニアンビール！とノンアルコールビールを頼むが、ニヤッと笑ってスチュワードが差し出したのはコカコーラ。東京銀行のバーレン支店でイランも担当していた、三鷹寮で一年上の辰紘先輩によれば、イランのノンアルコールビールはアルコールゼロだが結構いけるとのことだったが、初体験はお預けだ。フィッシュ！と頼んだ食事魚の汁賭けご飯だが、カレーとは違いピリツとしない。

半袖シャツに無帽のスチュワードに比べ、スカーフを被り、長いコートを羽織るスチュワードスは暑そう。北京で中国人客が降り、イラン人が沢山乗って満席でテヘランへ。飛行機は古く設備も悪い。今や国際線では常識の、座席の背のテレビもない。ケニアへ行く時乗った、ドバイのエミレーツ航空の至れり尽せりが懐かしい。イランの経済状態の反映だ。日本人女性客もスカーフ、長袖シャツ、ロングスカートで肌を隠し、首都テヘラン着。

時差 5 時間？真夜中 3 時テヘラン空港着！

日中は 40 度を越えるというが 25、6 度か、夜のテヘランは意外としのぎやすい。入国審査に長蛇の列。トイレは穴の上にお尻をおき、前向きに跨ぐフラット式。命中させるのに手間取るが、手動式ウォシュレットがお尻に気持ちいい。エジプトもそうだが、レストランもホテルの洋式トイレにも蛇腹で伸びた水栓がある。男性トイレにもあるからビデじゃない。分身も流すが、ロータンクが頭上についているので、それ専用ではない。が、ロータンクは壊れているのが多い。ペーパーは品切れ、早速「武富士」が活躍。ホテルを除きトイレには紙がない。ティッシュペーパーは必携だ。役目を終えたティッシュは流すとトイレが詰まるのでゴミ箱へ！と言われるが、日本の習慣でつい流してしまう。

ホテル着 4 時半、まずまずのホテル。バスタブに浸り床に就くが寝就けず、到着早々戒律を犯し寝酒を飲む。トランクに紙パック入りの日本酒を忍ばせて来た。ゴリゴリの無神論者がイスラムの戒律に従えるか！戒律の強制にあらかたのイラン人も困っているのは、国内上映禁止のイラン映画、「オフサイドガールズ」でよくわかる。心の中の神の存在は認めるが、人間が神を創ったのであって、神が人間を造った訳じゃない！神は人の心を幸せにしても、人の楽しみを奪うべきじゃない！百円ショップの茎若芽とスルメの薫製を肴にチビリ、チビリ。

予定を 1 時間遅らせ 10 時に、先ずは 1979 年の革命で打倒されたパーレビ国王の宮殿へ。英露の勢力争いから植民地化を避けんとドイツのナチスにも接近、最後はアメリカと結び、強権体制で近代化を図ったが果たせず。豊かな石油資源も国民の生活の向上に役立てられず、国外追放された。広い敷地の中に小振りだが贅を尽した宮殿が並ぶ。近くの、小川が流れ緑濃い森の中の、野外レストランのテーブル席で昼食を摂る。イラン人は栈敷風に仕切られた席に胡坐を組み、車座で楽しそうに語り、手で食べ物を口に運ぶ。お昼がメインの食事だという。ペルシャ湾で獲れたという鱒のグリルを肴にノンアルコールビールを初体験。ビール色で泡立つが、アルコール分ゼロで、甘くて不味い。

上善は水の如く、糞転がし思い出す

食後絨毯博物館へ。見事な年代物の絨毯の数々。中国とペルシャの絨毯のどちらが古い？中華文明とペルシャ文明の対抗意識が強烈だ。王宮の大きく緻密な敷物の上を闊歩する王族とそれを織る貧しい織り子と。次の訪問地ヤズドへ。空港の売店でバーバリアというオランダ製の、アルコール0%ビールをみつけて飲むが甘い。林檎サイダーの様だ。

岩山と砂漠の広大な荒地を飛び、ゾロアスター教の聖地ヤズドへ。砂漠のオアシスで人口35万、建物は日干し煉瓦で造られ、3,4階までだ。敦煌の飛行場への着陸に似る。古いハンマーム（公衆浴場）を改装した、タイルの美しい、素敵なレストランで夕食。ここはノンアルコールビールもなく、水を食事の友とする。上善水の如しか？下手なビールより水がいい？冷製スープと米、梅干し等14種の具が入り、ケニアで見た糞転がしの作品のように見事に丸まった羊の煮込みハンバーグは、ヨーグルトの酸味がきつい。その日はキャラバンサライ（隊商宿）風ホテル。灯りが燈る中庭に水が流れ、幻想的。いい気分日本酒を寝酒。常温でも、暖めても冷しても、水も氷もなしで飲める便利な酒だ。

イラン二度目の朝食は水音のする中庭のテラスで、朝の清々しい空気を吸いながらナンにジャムを塗る。コーヒーはインスタント。持参のポットで沸かしたお湯を、これも持参のコーヒーパックに注ぎ、部屋でコーヒーを飲み直す。世界遺産ジャメのモスクの青のタイルの美しさに目を眩り、ゾロアスター寺院の千五百年続く火の暑さをガラス越しに感じ、鳥葬の丘の沈黙の塔に息切らせ登る。言葉も出ない。この荒涼とした岩山と沙漠の世界で、人は生き、文明を築いてきた。砂漠を次の目的地シラズに走る。小さなオアシスのレストランでの昼食は、サラダに野菜と牛肉のシチュウ。酸っぱ過ぎず食べ易い。DELSTER LIGHTというノンアルコールビールを飲む。三度目でようやくビールの味がする。

地下水路で潤う緑

食後20分ほど走り、80才のお爺さんを置き去りにしたことに気づき、引返す。点々と緑のオアシスが続き、時に繋がり、ザクロやオレンジ、野菜の緑が目優しい。シラズに近づくと金色の小麦の刈取り跡や、トモロコシの濃い緑が目立つ。カントリーエレベーターも。小麦とトモロコシの二毛作の穀倉地帯だ。紀元前4世紀、アケメネス朝キュロス王の栄華の跡をパサルガドに訪ねる。キュロス王の墓の他は原型を留めず、荒野に数多の柱が虚しく天を突く。シラズのレストランでの夕食は、民族音楽を聞きながら牛のステーキに持参の醤油をかけ、甘さ押さえめのバーバリアビールを楽しむ。

翌日は来た道を少し引き返し、ペルセポリスの丘に登る。マケドニアのアレクサンダー大王に滅ぼされたアケメネス朝の宮殿、ペルセポリス。木製の屋根は焼落ち、石の柱のみ天を指す。アケメネス朝の繁栄の礎となった沃野は、良質な建材と燃料としての木材も大量に供給した。それ故に、何代かの王朝が栄枯盛衰を繰り返す間に、緑も失われたに違いない。ペルシャに次ぎ興ったギリシャの野も又、石野原だった。ローマも然り、乾燥した世界。文明は緑と共に興り、緑と共に滅ぶ？屋根のない宮殿に容赦無く陽は注ぎ、柱は永遠の孤独。朝作ったポットの味噌汁を飲み干す。夜は牛のケバブ。肉は平たく柔らかく香ばしい。khosh govarというノンアルコールビールが喉に沁みる。

シラズは岩山に囲まれた古い都、人口55万。町は緑濃く、道の幅広い分離帯には緑の芝と草花、街路樹。サルスベリ、キョウチクトウ、槿と時期的にも日本と同じ花が咲く。

昼の暑さ凌ぎに、夜の納涼に、カップルが、ファミリーが芝の上で、飲食しながら寛ぐ。街の緑には水が必要だが、雨の少ない気候で4,5千メートルの高山の雪解けの伏流水を、縦横に巡らした地下水路で流す。中国新疆のカレーズに似る。高名な詩人を祭る廟の地下深く清流が流れ、魚が泳ぐ。鱒ではないという、ハヤか？灌漑で農業も成立っている。砂漠の地下にも水路が走り、点々と赤い目印が立つ。

神の御名において！「男の日」にイスファハンで泳ぐ

安い費用で沢山見学できると考えれば強行スケジュールも苦にならないが、持参の海パンの活躍する機会がない。イスファハンで連泊、ホテル地下の温水プールに浸る。イスラムなので男女一緒には泳げない。普通は時間で区切るが、泊まったホテルは一日交代。男の日でラッキー。シーア派イスラムの、戒律の厳しいイランではトイレは勿論、空港の出入りも左右に分かれ、バスも前後に乗り分ける。もっとも、空港の入り口は別々でも、荷物チェックが終わると直ぐに又一緒になるのは、いかにも形式的でお笑いだ。

ホテルの小さな温水プールで、お祖父ちゃんと兄弟で来ているという中学生くらいの男の子が、Chinese? How are you? と話しかけてくる。ジャポンもコリアンも同じに見えるらしい。Japanese, fine, thank you! came from Tokyo! と返し、片言の英語で会話が弾む。イラン国民は概して日本に友好的だ。かつてイランが石油を国有化し、イギリスの呼掛けで欧米諸国がイランの石油をボイコットした時、窮地に陥ったイランに手を差し伸べたのは、日の丸の旗を掲げペルシャ湾と日本を往復する出光石油の日章丸だ。イラクからも早々と撤退し、アメリカのイラク侵略にも日本は余力を貸していない。

外国人女性にもスカーフと体の線が見えない長衣を強制、男性観光客にも飲酒、短パン、ノースリーブを禁ずる自信と、反面の自信の無さは何処からくる？権力を握った時の宗教の強さ、怖さと他方、国民生活を丸抱えすることで不満も宗教に向けられ、背を向けられる。心が離反するだけ、外形基準で信仰を強制する弱さ。強制するほど離反する民心。経済音痴の聖職者による政治が、経済を混乱させ、国民を困窮させる。無謬の神が過ちを犯し、現世の失敗を来世の幸福で購えるのか？現世の貧困に耐えれば来世で裕福になれると誰が信ずるか？まして権力を握る聖職者がしこたま懐に貯め込んだとしたら。産油国でガソリンは月百ℓの配給制。日本の車なら百ℓで千キロ走るし、都会暮らしなら年間4、5千キロも走るのが精々だが、イランでは他に交通手段がないし、老朽車が多いから百リットルのガソリンで幾らも走らない。おまけに1010円が17円になるというので、国民の不満は高まっている。強権的なイスラム体制の下で矛先は何処へ向くのか？

夕食は軽め、誇り高いイラニアンはコミュニケーション上手？

イスファハンのバザールで買物をする。夕食はバザール3階のテラス。イラン風に絨毯座敷に車座。陽が沈み、そよ風が心地いい。ヨーグルトとスープ、ナンが運ばれ、野菜や豆をペースト状にした物をナンにくるみ、口に運ぶ。新顔のノンアルコールビール3horseで喉を潤す。メインディッシュに備え2本目のノンアルコールビールを頼むと、チャイとお菓子が出る。順番がおかしい、早くメインディッシュが出ないかと待っているとブドウも。それじゃいいですかとガイド。慌ててノンアルコールビールを飲み干す。日本の感覚で幻のメインディッシュを待っていたのだ。イランでは昼の食事がメインなのだ。

隣座敷で男4人、女2人の若者。聞けば学生という。酒も入らないのに笑が絶えず、チャイ(紅茶)を汲み交わし盛上る。こちらはツアーに一人参加の男五人だけで車座になり、ノンアルコールビールにブツブツ言うだけで盛上らない。酒なしで心の垣根を払い盛上られるイラン人は、コミュニケーションの達人だ！街で若者が How are you? Chinese? 等と話掛ける。イスファハンで出発までの短い時間を利用、ホテルの周囲を散策する。豪邸の前でカメラを構えると、傍らの女性が「どうぞ」と親と同居の三階建住宅に招いてくれる。若主人を交え、お菓子と果物の歓待を受け、片言の英語とポラロイドカメラで交流、女性も黒いベールを脱ぐ。なかなかの美人だ。メールアドレスも交換する。

ペルシアの歴史は七千年前まで遡れる。遺跡での説明の度、ガイドのガンバリさんが誇らしげに「日本では縄文時代の・・・」「・・・弥生の」と言うと、日本は何て遅れてたんだ！と劣等感に襲われる。民族の支配、被支配の繰り返しの、大陸の人類の歴史の、かなりの部分で先頭を走ってきたペルシア。しかし、街を走る車の多くはオンボロだ。産油国でありながら、ガソリンは不足、ホームレスは余り見かけないが、庶民の生活は楽でない。空港も古臭くボーディングブリッジすらない。歩かされたり、バスで運ばれたり。過去への強い誇りの裏に、現状への深い苛立ちを感じたのは、私だけだろうか？

経済協力の規模は大きいほど、投資は多いほどいい！（黄土高原便り N04 3 0 より）

高見邦雄緑の地球ネットワーク（GEN）事務局長

大同市総工会が、日本大使館に要請していた外務省草の根無償資金協力のプロジェクトが決まる。大同市周土庄鎮の三十里鋪村に小学校を建て、遇駕山村で井戸を掘ることに。この鎮には私たちの協力拠点白登苗圃とかけはしの森があり、なじみのところ。8月の大同滞在中に、三十里鋪村を覗いて来る。レンガ建ての教室が形を現し、遇駕山村の井戸も既に着工している筈ですが、途中の道路が工事中で近づけません。それに先立ち7月25日、山西省の省都・太原で調印式が開催され、日本大使館から経済部参事官の石川浩司さんが、大同市総工会を代表して陳金宝主席が出席しました。

会食に移る時、北京からきた若い人が達者な日本語でささやきました。「この後、おおものが参加します」。その後わかったのですが、その人は中国国家発展改革委員会・対外経済研究所所長助理の劉錦明さんで、古くからの友人、中華全国青年連合会の湯本淵さんや共産党中央対外連絡部の李軍さんと、大学で同級生。中国は狭いし人も少ないので、こういうことがしょっちゅう。「おおもの」とは、山西省発展改革委員会の主任、令政策さんのことでした。昼食の席には山西省外事辦公室的主任、副主任もいましたが、実際の中心は令さん。とても要領よく山西省の概況を説明されたので、シャープな人だという印象です。その後、令さんの口調にいらだちがでました。これまで50社以上の日本企業の人に会ったけど、彼らはヒアリング調査をするだけで、その後はなしのつづて。決定権を持つような人はやってこない。欧米からくるのはトップクラスで、ほぼ即決のように事業が決まる。日本に関心があるし、日本企業に山西省にきて欲しいけど、そうならない、残念だという。次のような話もありました。日本側は10万トンの規模ならOKというけど、中国の実際には合わない、最低でも50万トンなければ合理的でない。話がストップしてしまうと。山西省が、対象になる訳ですから、石炭を始めとするエネルギー資源に関する件です。雰囲気はわかる気がします。

まずは日本側。今は大きな成功を追求するより、失敗を避けたいという気持ちの方がずっと強い。きっちりと数字でつめ、安全を確保しないことには動きようがない。積極的に打って出ようという動きはもっと軽い分野の産業で、エネルギー資源とかではない。それに対して中国側は…。10年ほど前ですが、私も経験があります。規模は大きければ大きいほど、投資は多ければ多いほどいいと中国側は主張する。でも具体的な根拠は余り示されない。山西省は対外的な関係は弱いですから、その後も、誘致した外資はほんのわずか。対外的な接触でもまれる機会も多くなかった。そして、今中国は経済面では大膨張、自信をもって自分の考えを主張する。すると日本側はまた一步退く。令さんは欧米企業の積極性を強調したんですけど、やはり風土の違いが大きい。大同の隣の朔州市に露天掘りの大きな炭鉱があります。アメリカ企業の、開発・経営です。仮に日本の企業なら、どこがそんなことをするか、イメージしにくい。山西省は対外開放が他の省より、おそらく10年は遅れてスタートし、焦ってるんですけど、この差はなかなか取り戻せない。地元の方でも相手国のことを理解しないとうまく進まないでしょうけど、それができない。

私の本の中国語版を手渡したんですけど、令さんは「あなたたちの活動は知っています。困ったことがあったら、何でも言って下さい」と話されました。令さんは数年前、大同市の市長就任が決まったのだが、現在の職に転じたため郭良孝さんが大同にきました。現在郭さんは共産党大同市委員会書記で、トップ。令さんは4人兄弟で、弟の令計画さんがさらに有名。共産党中央弁公庁常務副主任で、胡錦濤の秘書です。今年の秋の第17回共産党大会で、どういう職につくか注目されています。兄弟2人とも共産党大会代表に選出済みです。そんなことまで含め、「おおもの」といったんでしょう。残念ながらそんなことは後で教わったことです。「困ったこと」はいくらでもありますから、もう少し親しくなるように努め、頼みごとにいけるようにすれば、よかったのに……。

GEN 訪日団歓迎会

10月11日から11日間の日程で、大同から訪日団が来ます。陳金宝(大同市総工会主席)・柴京雲(大同市総工会副主席)・李子明(大同県総工会主席)・王其軍(天鎮県総工会主席)・樊瑞敏(新榮区総工会主席)・史海湘(大同市開發区総工会主席)・施平(大同市総工会辦公室主任)等、中国有数の石炭と電力の町、大同市の幹部7名と、緑の地球ネットワーク大同事務所のスタッフ4名です。関西と東京で山林・植物園等での技術研修や、会員等との緑化協力活動の報告会・交流会を行ないます(参加ご希望の方はGEN迄)。

東京での懇親会は下記要領で行ないます。興味のある方は、奮ってご参加下さい。

日時：10月20日(土)17:00～ 会費：5,000円(学生4千円)
場所：SANKOUEN CHINA CAFE & DINING(中国料理 三幸園)
千代田区神田神保町1-5 島田ビル(すずらん通り中ほど) 電話：03-5280-1231
(都営三田線神保町駅A7出口より徒歩1分 / 都営新宿線神保町駅A7出口より徒歩1分
東京メトロ半蔵門線神保町駅A7出口より徒歩1分 / JR線御茶ノ水駅より徒歩9分)
問合せ・申込み先 認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク(GEN)
〒552-0012 大阪市港区市岡1-4-24 住宅情報ビル5F
TEL.06-6576-6181 FAX.06-6576-6182
E-mail gentree@s4.dion.ne.jp URL <http://homepage3.nifty.com/gentree/>

人間居住環境としての地球環境問題・東大三鷹クラブ第74回定例懇談会のご案内

今回の講師は小島敏郎・環境省地球環境審議官（昭和42年入寮）。地球温暖化が声高に叫ばれ、環境行政の重要性が高まる中で、次官に次ぐ環境省ナンバーツーとして、対外交渉・海外出張も多く、広い審議官室に顔を出すといつも疲れ気味ですが、ご苦労様。

小島君が入寮した1967年は69年1月の安田講堂攻防戦を頂点とする東大闘争が、発端の医学部から全学へ波及しようとしていた頃。翌68年7月に駒場の教養学部がストライキを打ち、更に夏休み明けには無期限ストに突入、佳境を迎えます。学外では、ベトナム反戦・70年日米安保条約改定反対の労働者・学生の闘争が高揚、戦後の冷戦体制の下で続いてきた、体制選択を巡る大衆運動が、最後の盛り上がりを見せていました。

当時自治寮だった三鷹寮でも新左翼の全共闘系と日本共産党系の勢力が拮抗、67年冬の自治委員長選挙で私が1票差で佐藤久夫君（41年入寮同期・日本社会福祉事業大学教授）に辛勝、三鷹寮は全共闘の拠点となっていました。入寮した小島君はさっそく全共闘の隊列に参加、多くの寮生諸君と共に学内外の闘争で活躍、頭角を現し、68年夏の選挙で38期寮委員長に当選、寮生を率いて東大全共闘の一翼を担っていきます。

安田講堂陥落を機に東大闘争も終息に向かい、全共闘の「戦士」達は苦しい進路選択を迫られ、自ら命を絶つ仲間も。その中で小島君は法学部に進学、司法試験、国家公務員上級職試験に共に優秀な成績で合格、できたての環境庁に二期生として入りました。折から公害問題が声高に叫ばれ、正義感溢れる若者として、新たな社会矛盾を解決せんとする積極的な選択だったと思います。因みに私の前の36期寮委員長の高見邦雄君は駒場で中退、日中友好運動に飛び込み、NPO法人「緑の地球ネットワーク」事務局長として中国黄土高原緑化で功績を上げ、小林政秀35期委員長は弁護士で活躍、34期の辰紘委員長は東京銀行に入り海外に雄飛、宮原耕治33期委員長は社長として日本郵船を率いています。

地球温暖化、ポスト京都議定書、炭素税、CO2排出権取引、リサイクル、産業廃棄物処理等、環境行政、人類の居住環境としての地球環境問題について、忌憚ないご意見を伺えるものと思います。奮ってご参加下さい！（文責 干場革治 昭和41年入寮）

日時：平成19年10月3日（水） 18時30分～21時

場所：学士会館本館203号室（千代田区神田錦町3-28 03-3292-5931）

会費：5000円（会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み）

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

（有）ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

湊 博昭君を偲ぶ会のお知らせ（後書に代えて）

三鷹寮同期の湊君が、一ツ橋大学保健センターの先生のまま、若くして旅立ってから早一年。肝臓から脳に癌が転移、医師として死期の真近いことを知りながら、誰にも話すことなく、従容と死を受け入れていった彼は、生き残った「戦士」の道の一つを暗示しているように思います。ご遺族の方も参加、以下の要領で、湊 博昭君を偲ぶ会を行います。

2007年10月27日（土） 午後四時～ 会費 六千円（予定）

モンテベルテ（旧白楽）東大正門前2F 文京区本郷6-2-10 電話 03-3816-5957

出欠連絡先 e-mail: ohashikenzo@jcom.home.ne.jp 又は 03-5930-6997（大橋）